

特集◎厳選!自分を豊かにする「投資先カタログ50」

2013
8
No.37

Forbes JAPAN

定価890円



特集◎世界のHR最先端企業に取材敢行!
強い組織の力は
「エンゲージメント」にあり



「あなたの自己満足」が社会を変える

新しい「お金の使い方」

1,000万円で宇宙ロケットの打ち上げボタンを押す

ゲイツ夫妻も実践!「効果的な利他主義」とは何か

稻盛和夫と永守重信 私が「私財」を投げる意味

HIRONA ITAGAKI

事業内容 途上国の入浴の問題と自立を目指す。革新的なテクノロジーを届ける。途上国向けのテクノロジーを見つけて、原地へ普及させるまでの開拓支援、自立支援を行う。JPモルガン協賛「中小企業のアジア進出プロジェクト」を主催。2004年に設立。

天花寺宏美
代表理事

イノベーションの最前線を走りつつ、非営利とビジネスを組み合わせ持続性も担保。多くの企業と連携し、イノベーションを創出する現場や手法を提供。創設時から徹底して科学的な社会的インパクト評価を実施（工藤）。

● 停電時の自動点灯や、虫が寄ってこないよう配慮された光を灯す「マジックパルプバット！」。帳中電灯としても使え、停電の多い発展途上国での普及を目指す。

**特定非営利活動法人
自立生活サポートセンター・もやい**

REN ONISHI

事業内容 誰も排除されることなく、安心して暮らせる社会をつくる。ホームレス状態にある方の入居支援や生活相談・支援事業、交流サロン「サロン・ド・カフェ・こもれび」などの交流事業、広報啓発事業を運営。2001年に設立。

大西連
理事長

高齢化や雇用、社会システムの大変化で、「貧困」はもはや一部の人の問題ではない。もやは、様々な仕組みの狭間に落ちてしまった生活困窮者たちを社会に繋ぎ止めるセーフティネットのつくり手。案内人だ（望月）。

**認定特定非営利活動法人
Switch**

YUKA TAKAHASHI

事業内容 すべての人々が自分らしい生き方を取り戻し活気ある社会を築くことを目指す。障がい福祉サービス事業所の運営、就労支援等の学生支援事業や石巻の若者への中間就労支援、メンタルヘルス研修・研究事業を運営。2011年に設立。

メンタルに困難を抱える若者の就労支援に精力的に取り組む、仙台を拠点とするNPO。石巻でも就労困難な若者を支援。社会的インパクト評価も自ら実施する。理事長は、元レーサーという異色の経験の持ち主（塚本）。

MORIYOSHI KOBAYASHI

事業内容 言文探事業、100人委員会、相談サイトなどの支援サービス検索・相談サイトなどの子どもの権利保護推進事業、啓発活動を行う。2011年にNPO法人化。

森山聰恵
代表理事

「すぐ隣にいるかもしれない助けが必要としていることも」に気づく。「現在版共助の関係」を感じ肩を提示する重要な活動。常にこどもたちの立場に立ちながらも、他団体と「共助の関係」をもって活動を展開（渋澤）。

17

**特定非営利活動法人ソーシャル
ベンチャー・パートナーズ東京**

TAKASHI FUJIMURA

事業内容 投資先であるソーシャルベンチャーの成長によるミッション達成と、社員たるパートナーの協働を通じて成長し、地域や所属組織のイノベーションに貢献することを目指す。パートナーの持つネットワークから支援のためのリソースを提供。2003年創立。

藤村隆
代表理事

社会課題を解決する事業への、時間、資金、スキルを活かした経営支援で、社会的インパクトを生み出す「ベンチャーフィナンスロビー」。仲間との出会いもある。「自分も育ち、つながりが増える」社会貢献だ（鶴尾）。

3 8

**認定特定非営利活動法人
育て上げネット**

KEI KUDO

事業内容 若者の「働く」と「働き続ける」を応援。就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」や学校などへの出後授業による教育支援事業、日本マイクロソフトやJPモルガンなどの企業連携による若者支援プロジェクトを多数運営。2004年にNPO法人化。

工藤啓
理事長

ニートやひきこもりに代表される若者の課題解決、就労支援などを本人だけではなく保護者にも提供。最近では、少年院を退院後の子どもたちへの支援という非常に難解で困難な事業に取り組んでいる点を評価（坂之上）。

3 8

**公益社団法人
チャンス・フォー・チルドレン**

YUSUKE IMAI

事業内容 未就学児童の教育扶助や代間連絡を主力事業。多くの教育政策を提唱。また大学生ボランティアも見守りにも取組む。

今井悠介
代表理事

貧困家庭への直接的な寄付は、直結しない点に注目。塾などのできる塾（パワチャ）として配かる。情報開示も丁寧で、組織力も高い（塚本）。

3

**一般社団法人
ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ**

KIYOE SHIMURA

事業内容 誰もがかけがえのない存在と自ら感じ助け合える社会の復興を目指す。「ダイアローグ・イン・ザ・ダーク」などを通した対話の普及啓蒙、学校教育の一環としての取り組み、視覚障がい者による商品・サービス開発や講演などを行う。2011年に設立。

暗闇のエキスパート・視覚障がい者のアシスタントで、光のない中でグループ探検するプログラムを展開。対話力の重要性、自己の再発見など様々な体験ができる。眞のダイバーシティ社会を示唆する重要な活動（渋澤）。

● 勉強だけでなく幅広いチャレンジ。年額15~30万円で、130以上の教育事業者